

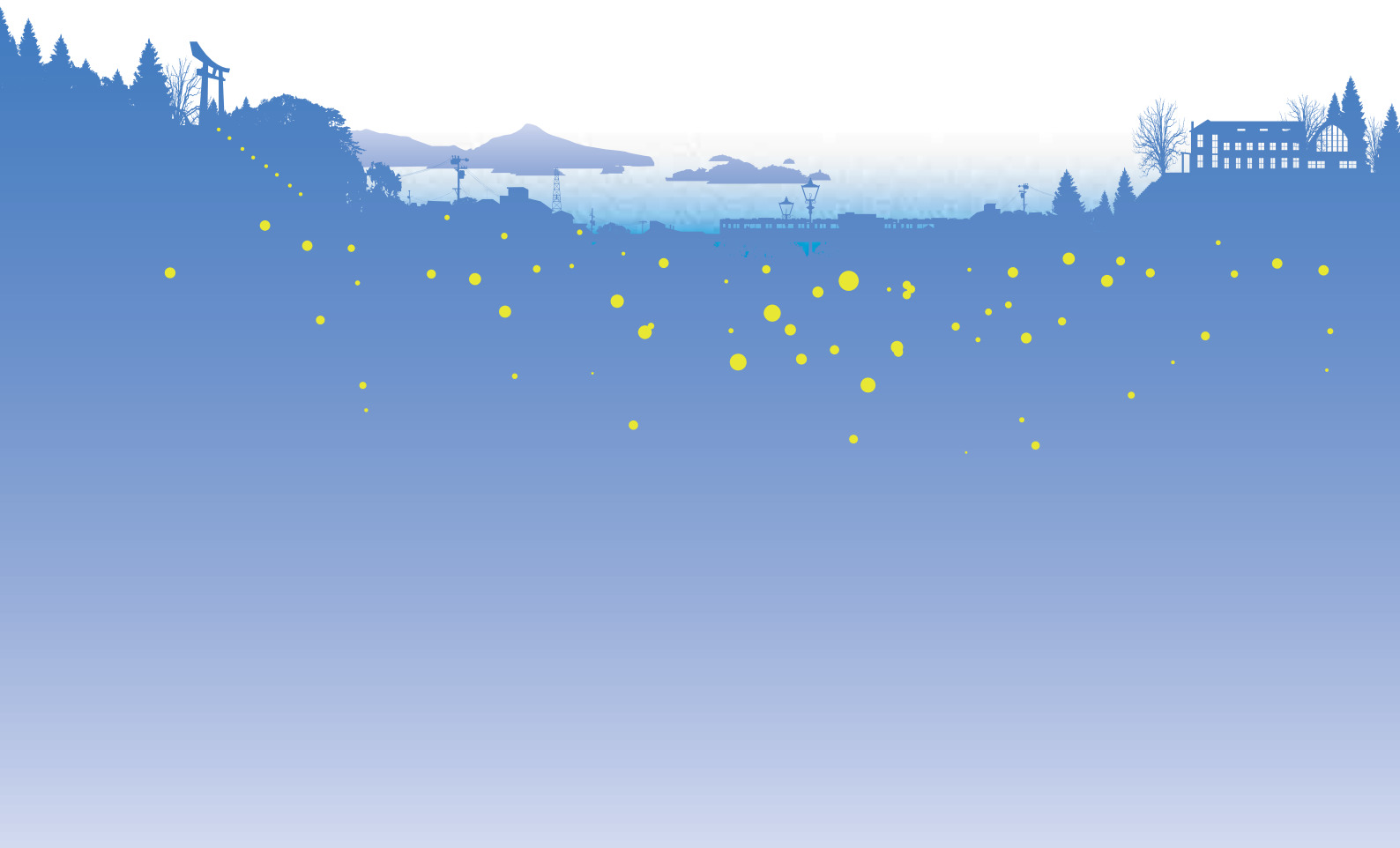


塩竈市都市マスタープラン

2017 ~ 2036



塩竈市都市マスタープラン



はじめに

本市のまちづくりは、波静かで風光明媚な風土を生かしながら、長い時をかけて取り組まれてきました。

まず、奈良時代に南町（舟戸）に国府多賀城の港が開かれ、白坂から第一小学校の丘陵上に国府津千軒と呼ばれる都市が形成されました。

さらに、平安時代以降、千尋淵と呼ばれた入江を埋め立てながら市街地の拡張が始まり、江戸時代には、仙台藩の保護のもと、鹽竈神社の門前町・仙台北下の港町として賑わいました。

近代的なまちづくりは、明治15年～18年(1882～1885)の「開港場」と呼ばれた築港工事に始まり、明治20年(1887)、塩竈～上野間の鉄道開通、大正4年(1915)～昭和8年(1933)の第1期築港工事、大正15年(1926)、宮城電鉄(現仙石線)の開通により、利便性に優れた東北有数の港湾都市に発展しました。

戦後のまちづくりは、本町から旭町周辺の戦災復興事業に始まり、高度経済成長を背景に都市計画の見直しが行われるとともに、北浜地区をはじめとする土地区画整理や仙石線の高架複線化、再開発ビル壱番館の建設、北浜沢乙線の景観整備、利府中インター線をはじめとする幹線道路の整備など、数多くの都市計画事業が行われてきました。



「塩竈市都市マスタープラン」は、まちづくりのビジョンとその実現の道筋を示すため、平成7年10月に策定され、この計画に基づきまちづくりが進められてきました。

しかし、人口減少や少子高齢化の到来、東日本大震災など、本市を取り巻く環境が大きく変化したことから、時代にあった都市構造への転換を目指し、今回、都市マスタープランの改定を行いました。

震災以降、本市のまちづくりは、その基本計画である「長期総合計画」と復興の道筋を定めた「震災復興計画」を両輪として進めておりますが、この都市マスタープランは、これらの計画を踏まえ、今後20年間の個別の都市計画の基本方針を示したものとなっております。

また、この計画は福祉・観光・暮らし・歴史文化・教育など、様々なまちづくりの受け皿となる都市基盤の方針や、市民と行政が協働で取り組む内容を示したものとなっております。

最後に、マスタープラン改定にあたり、数多くの貴重なご意見、ご提言を賜りました「塩竈市都市計画審議会」、「塩竈市都市マスタープラン改定有識者懇談会」、「塩竈市まちづくり懇談会」、「地域別懇談会」、「塩竈の未来のまちづくりを考える会」にご参加いただいた委員並びに市民の皆様に、心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも市政の繁栄にご助力を賜りたくお願い申し上げます。

平成29年3月

塩竈市長 佐藤 昭

